



有珠モシリ遺跡

P02 骨・歯の接合関係による多数合葬葬例の埋葬過程復元—北海道有珠モシリ遺跡の事例—

○青野 友哉¹・永谷 幸人²・近藤 修³・澤田 純明⁴・三谷 智広⁵・菅野 修広⁶ ¹東北芸工大, ²伊達市噴文研, ³東大・院理, ⁴新潟医福大・リハ, ⁵パレオ・ラボ, ⁶登別市教委

目的:北海道伊達市有珠モシリ遺跡で2020年に検出した18号墓は、墓坑内から11体分の人骨が出土した縄文晩期後葉の多数合葬葬例である。2021年には人骨群の直下から墓坑底面までを精査して墓坑構造の把握と遊離歯を含む人骨の記録・採取を行なった。多数合葬墓の類例は茨城県中妻貝塚や愛知県伊川津貝塚などがあるが、いずれも埋葬過程の解明が課題である。有珠モシリ遺跡の調査では、人骨と遺物に1点ごとの番号を付して出土位置を詳細に記録した。本発表では、人骨の接合と歯の突合作業により墓坑内の環境と埋葬行為の検討を行った結果について述べる。

方法:出土位置を全点記録した人骨の接合関係と歯の突合結果を基に墓の埋葬環境と埋葬行為を復元する。歯の突合作業は形状・咬耗度・密着度・色調・付着物などを総合して判断する。



図1 骨端未癒合個体の接合



図2 上顎と下顎の入違い事例(右:18J 左:18K)

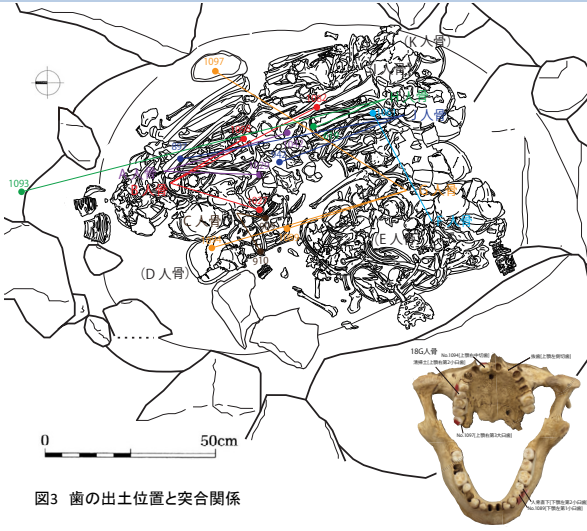


図3 歯の出土位置と突合関係

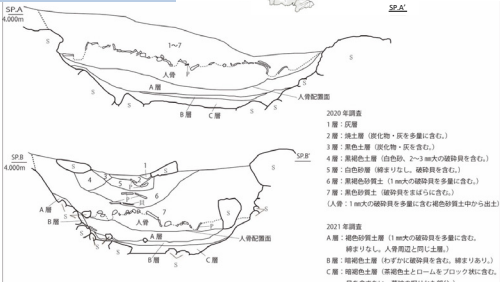


図4 18号墓の土層断面図

結果2: 歯の突合結果(図3・表1)

墓坑底部から出土した遊離歯17点は8体の頭骨に由来した(発表要旨提出時より増加)
出土位置:遊離歯は頭骨から20~70cm離れ、南北の頭骨列を跨ぎ、墓坑底面に広く分布→**頭骨の軟部組織が腐朽した段階での移動と配置**
 ※①他所の一次葬墓からの移動、②墓坑内での人骨の再配置、③一次葬墓を改変した再葬墓、のいずれの可能性もある

結論と課題

結論:18号墓は、再埋葬時に墓坑全体が開口した状態であり、再葬あるいは改葬人骨の頭骨を列状に配置したのちに、四肢骨、他の体幹骨の順に配置し、埋め戻したものである。根拠は以下の4点である。
 ① 人骨群の最下部は南北2列に向かい合った頭骨であった(18Eを除く)
 ② 上顎と下顎が入違った18Jと18K人骨は同時に再埋葬されたことを示す(直上で同じ顔面方向の18Hと18I人骨を含めた4つが同時の可能性あり)
 ③ 18A~D人骨の範囲から出土した大腿骨片(4点)が接合した
 ④ 帰属の判明した遊離歯の多くが南北の頭骨列に跨って出土した
課題:18号墓構築以前に一次葬墓が存在した可能性や、追葬人骨を一時期に再配置した可能性も残されており、今後は人骨の各部位の個体識別と他の墓坑出土の人骨との接合・突合関係、咬痕の有無を調査する必要がある。

墓の構造と人骨の出土状況

規模:南北1.68m、東西1.24m、中央部の深さは0.49m 底面:坑底ピットなし(2021年9月の発掘による成果)
 頭骨の配置:北側(4個体)と南側(6個体)が顔面を向かい合わせて列状に配置 → 意図的な配置

結果1: 骨の接合関係

1,000点以上の人骨破片のうち49箇所が接合。33箇所は一つの骨が二つに割れた状態で同一箇所からの出土(再埋葬後の土圧等で破損したもの)。16箇所は離れた場所で出土した骨が接合している。
 ① 骨端未癒合個体の接合(図1)
 ・大腿骨の骨幹部(No.360)と骨頭部(No.773)、顎部(No.800、No.841)が墓坑内の離れた位置(約40cm)から出土
 → 再埋葬時に遺体の軟部組織が腐朽していたことを示す
 → 接合した人骨の出土範囲(A人骨からD人骨)は同時期に開口していたことを示す
 ② 上顎と下顎の入違い事例(図2)
 ・本来の組み合わせと異なる状態で出土 → 18Jと18Kの2個体は同時に再埋葬されたことを示す

表1 人骨と歯の突合関係(有珠モシリ遺跡18号墓)一覧表

突合人骨	歯			出土位置(点上げ番号・層位)	発掘年度
	部位1	部位2	部位3		
18A	上顎	左	中切歯	清漆土	2020
	上顎	左	側切歯	清漆土	2020
	上顎	右	中切歯	1029	2021
	下顎	右	側切歯	1042	2021
	下顎	左	側切歯	人骨直下	2021
	下顎	右	中切歯	1098	2021
18B	下顎	右	側切歯	1082	2021
	下顎	左	中切歯	1027	2021
	上顎	左	第2小臼歯	909	2020
18C	上顎	左	中切歯	910	2020
	上顎	右	切歯	覆土	2020
18F	下顎	右	第1臼歯	覆土	2020
	下顎	右	中切歯	人骨直下	2021
18G	下顎	右	切歯	1061	2021
	上顎	右	第2臼歯	清漆土	2020
18G	上顎	右	第3臼歯	1097	2021
	上顎	右	中切歯	1094	2021
18G	下顎	左	第1臼歯	1089	2021
	下顎	左	第2臼歯	人骨直下	2021
18H	上顎	左	切歯	1093	2021
	下顎	右	第1臼歯	619	2020
18I	上顎	左	第1臼歯	525	2020
	上顎	右	側切歯	942	2020
18I	上顎	左	切歯	897	2020
	上顎	左	中切歯	918	2020
保留	上顎	右	第2臼歯	6層	2020
	上顎	右	第1臼歯	6層	2020

■本研究はJSPS科研費18H00749[基盤研究(B)代表:青野]、19K21657[挑戦的研究(萌芽)代表:青野]および22H00741「受胎人骨の骨科学分析による縄文終末期の埋葬原理と社会変容の解明」[基盤研究(B)代表:青野]の助成を受けている。